

水 振 協 ニ ュ ー ス

(令和 4 年度号)

編集・発行 (公財) 滋賀県水産振興協会

草津市志那町柿根 1393-2

TEL 077 (568) 3451

FAX 077 (568) 3788

令和 4 年度の放流事業結果は・・・

・「ニゴロブナ 1,065.5 万尾・ホンモロコ 135.8 万尾・ゲンゴロウブナ 103.3 万尾・ワタカ 3.2 万尾」を放流！

・「人工河川 アユ親魚 12.1 トンの放流」を実施！「34.4 億尾のアユふ化仔魚」が琵琶湖へ流下！

ニゴロブナ

6～7月の2cm稚魚の放流尾数は、水田育成が 866.1 万尾(計画 800 万尾)、北山田地先筏施設(草津市)での生産放流が 6.3 万尾で、合計 872.4 万尾でした。また、10～12月にかけて、平均体重 19.4g の大型稚魚 60.9 万尾を栽培漁業センター、平均体重 20.3g の大型稚魚 40.7 万尾を北山田地先筏で各々生産し、さらに滋賀県漁業協同組合連合会(県漁連)から平均体重 22.6g の大型稚魚 7.5 万尾を購入し、合計で 109.1 万尾(計画 97.5 万尾)を放流しました(放流内訳は南湖 36.2 万尾、北湖 72.9 万尾)。その他に、県漁連では 10月に平均体重 19.0g の大型稚魚 8.0 万尾を独自事業として北湖へ放流されました。

水田育成 主に沿湖漁業協同組合の御協力により実施し、557.4 反の水田にふ化仔魚(卵からのふ化仔魚換算を含む)で 2,273.2 万尾を放養し、約 1 か月後の中干時に 2～3cm の稚魚 866.1 万尾を琵琶湖に放流しました(放流内訳は南湖 113.3 万尾、北湖 752.8 万尾)。なお、水田からの稚魚の流下率(流下尾数/放養尾数)は約 38%でした。

さらに、赤野井湾周辺の水田(守山市)105.3 反にふ化仔魚 420 万尾(計画 400 万尾)を放養し、約 1 か月後の中干時に 2～3cm の稚魚 84.0 万尾を琵琶湖に放流しました。

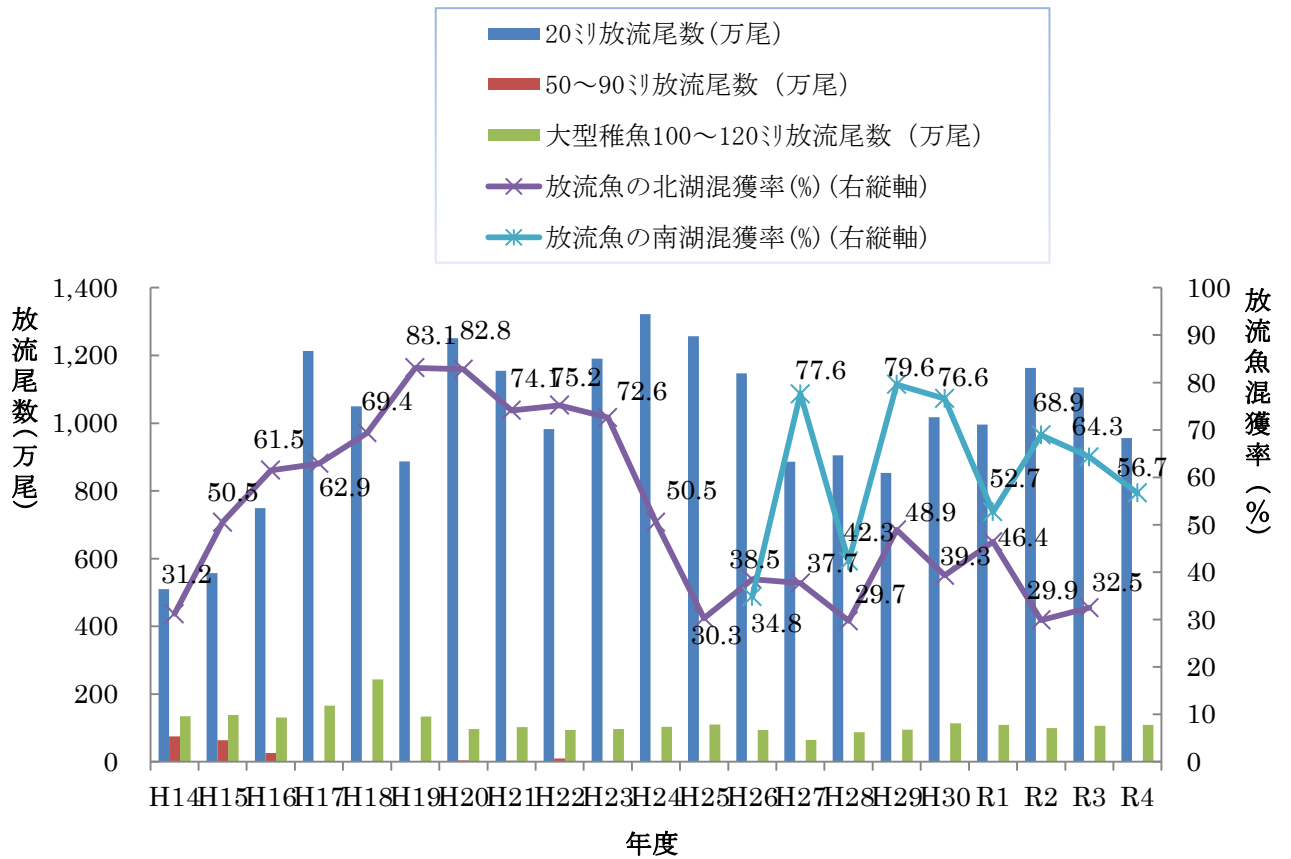
放流効果 当協会では種苗放流の事業効果を知るために、令和 5 年 2～3 月の今冬季に、北湖において小糸網で漁獲されたニゴロブナの標識調査を行っています。今冬季の放流魚の混獲率(漁獲魚に占める放流魚の割合)は調査中ですが、令和 4 年 2～3 月(冬季)の放流魚の混獲率は 32.5%(前年は 29.9%)で(北湖での漁獲物 739 尾調査)、前年とほぼ同程度の値でした。それら放流魚のうち、水田放流の稚魚と沖合及び沿岸に放流した大型稚魚の混獲率の内訳は、各々 6.1%と 26.4%でした。また、令和 4 年 3～5 月の南湖における放流魚の混獲率(調査尾数 359 尾)は、56.7%(内訳は水田放流の稚魚が 16.5%、大型稚魚が 39.9%)で、例年と同様、北湖よりも放流魚の割合が高い結果となりました。なお、平成 26 年度～令和 3 年度まで、8 年間の北湖及び南湖の放流魚の平均混獲率についても、各々 37.9%及び 62.1%で、南湖の方が放流魚の割合が高くなっている。



水田で2～3cmに育ったニゴロブナ稚魚



ニゴロブナ大型稚魚の放流(北湖, 彦根市石寺地先)



ニゴロブナの年度別放流尾数(万尾)及び放流魚混獲率(%)の推移

ホンモロコ

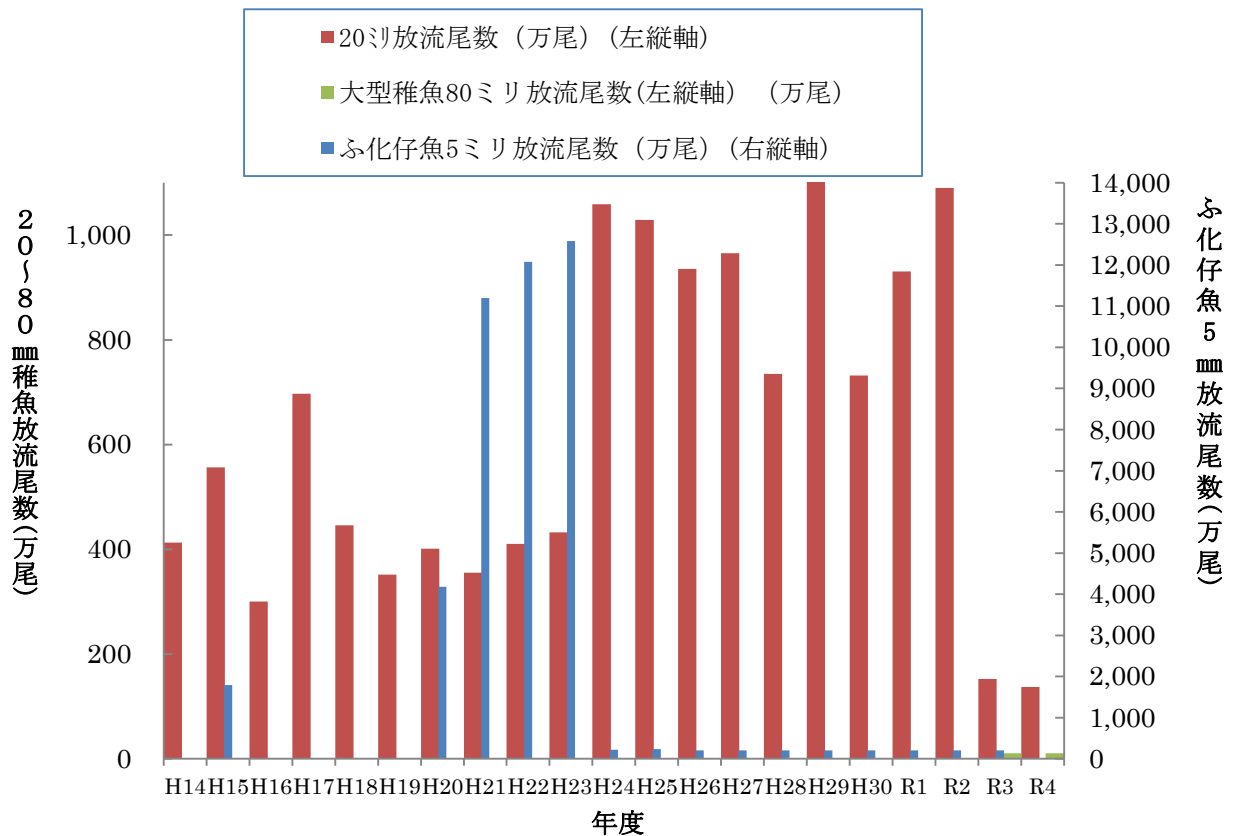
北山田筏施設 昨年度に引き続き、北山田筏施設においても、約8cmの大型稚魚を生産し、10月に 10.5万尾(計画10万尾)を北湖へ放流しました。



ホンモロコ大型稚魚(約8cm)の放流前の取上げ検量



北湖へ放流するため北山田筏施設で生産したホンモロコ大型稚魚(約8cm)の琵琶湖丸(水試)への積み替え作業



ホンモロコの年度別放流尾数(万尾)の推移

ワタカ

栽培漁業センターにおいて、生産した約4cmのワタカ稚魚 3.2万尾(計画1.5万尾)を南湖に放流しました。

また、南湖で漁獲されたワタカについて、毎年度、標識調査を行っていますが、過去5か年間(平成29年度～令和3年度)の放流魚の平均混獲率は 85.3%で、南湖においては、天然のワタカ資源が非常に少ない状況が続いていることがわかります。



ワタカ稚魚(栽培漁業センター飼育池放流前取上検量時)



ワタカ稚魚の放流(南湖, 守山市赤野井地先)

アユ (人工河川管理運用事業)

令和4年度は、早期放流用の養成親魚として、8月25日～9月3日にかけて親アユ8,000kg、288,400尾を安曇川人工河川へ放流しました。また、姉川人工河川へは、9月7日～8日にかけて姉川河口のヤナで特別採捕した天然親アユ4,127kg、722,400尾を放流しました。それら放流親魚の産卵ふ化の結果、9月6日～10月21日にかけて合計で 34.4億尾(前年は26.6億尾)のふ化仔魚を琵琶湖へ流下させました。また、9月9日には県の指定により田川上流域(長浜市)へ同じく天然親アユ870kg、150,000尾を放流しました。



養成親魚の放流前成熟度調査



養成親魚の放流(安曇川人工河川)



流下ふ化仔魚調査(安曇川人工河川)

「LOVE BLUE 事業」による種苗放流(令和2年度から新規事業)

令和4年度も、一般社団法人 日本釣用品工業会が実施する水辺の環境保全を目指した社会貢献事業である「LOVE BLUE 事業」と当協会が連携して、漁業だけでなく釣りの対象でもあるホンモロコ、ゲンゴロウブナについて、以下のとおり水田育成による種苗放流事業を行いました。

ホンモロコ 南湖周辺(草津市、守山市及び大津市)の水田 116.2 反に、ふ化仔魚で 400 万尾を放養し、約 1 か月後の中干し時に 2~3 cm の稚魚 125.3 万尾 を草津市下寺町地先や大津市雄琴地先などの水域に放流しました。

ゲンゴロウブナ 近江八幡市(西の湖)、高島市及び長浜市の水田の計 64.9 反に、ふ化仔魚で 250 万尾 を放養し、約 1 か月後の中干し時に 2~3 cm の稚魚 103.3 万尾 を西の湖、高島市新旭町地先及び長浜市早崎町地先などの水域に放流しました。



ホンモロコ仔魚の観察会と同仔魚の水田への放流



水田で2~3cmに育ったホンモロコ稚魚

最後になりましたが、県水産課、県水産試験場及び各関係漁業組合の各位に対しまして、種苗生産、放流及び標識調査にご協力頂きありがとうございました。